



# イノベーション創出型 STEM 人材の育成

## VIDEO TRANSCRIPT

世の中の社会課題をどう捉えるのか  
捉えてそれを新しい技術を使って  
どう解決するのか  
人間同士がコミュニケーションをとりながら  
考え方実践するってことを重視しています

今ですとデジタル IT アクセンチュアが持っている  
ICT のスキルを若い世代に提供して  
日本の経済力 競争力を高めていく

ビジネス全体の中で多分デジタルって  
すごくエクスパンドしていて  
その中で STEM の重要性というのは  
すごく高まっていると思います

アクセンチュアの企業市民活動は  
"Skills to Succeed"という共有テーマで  
推進されています  
2020 年までに世界各地の 300 万人以上の  
人々に 就業や起業のためのスキル構築の機会  
を提供することを目標としています

日本においても "Skills to Succeed" の  
テーマに沿った数多くのプログラムの提供を  
通じて人材・スキル課題の解決を図り  
持続可能な社会づくりに貢献しています  
その取り組みの 1 つに 科学・技術・工学・  
数学のスキルを有する「STEM 人材の育  
成」があります  
その中から 2 つのプログラムをご紹介します

ロボットとプログラミングについて  
学びました！

小学校高学年のおこどもたちを対象とした  
ロボットプログラミングワークショップを  
NPO 法人 CANVAS とともに  
展開しています

実際にロボットを作つてみよう ですか  
世の中でどんなことが困つてゐるのかな  
社会課題を解決するロボットはどんなもの  
が必要かな ということを考えて発表する



セキュリティについてのロボットを作ることにしました

プロの方と子供達が一緒になってワークショップをするということが子供達にとっては良い体験なんじゃないかな ということ

適正な知識を持って使うことで世の中の役に立つようにどうでも変えられるのでそれをちょっとでも実感するためにはこういう小さい時から触っておくのは大事かなと思います

できることを体験するとか みんなでアイデアを出すみたいな そういう楽しさとかできたっていうそういう実体験を 早いうちに感じてもらいたいなというふうに思っていて

きっと本当に世界を変えるようなロボットが当たり前に作れる時代になっていく

面白かった～！

何が問題で それに対してデータでどうアプローチするのかというところを組み立てるような講座にしています

津田塾大学をはじめ複数の大学で「実践型データ分析演習講座」を実施しています  
津田塾大学の講座では 連続講座の中で実際に渋谷区のオープンデータを使って分析スキルを学びながら 地域課題を自分事として捉え 解決に取り組んでいます

データをそもそも分析するってことはどういうことなのか  
それから 実際にその結果として社会に貢献する そのプロセスそれを今まさに現在進行形でやっていらっしゃるアクセンチュアの方々に直接やっぱりコンタクトしてもらうそこに非常に大きな意義があると

今回自治体さんにご協力をいただきてデータをご提供くださったので 自分たちの生活に密接なデータになってくると思うのでそういうところで生のデータに触って分析を近くに感じてほしかったなど

データを触ってみよう ということをアクセンチュアの方に教えていただいてデータからまず何を言えるのかってことが大事なんだよってことをすごく教わりました

行政が 何をやっているのかとか 目を向けてくれるんじゃないかな という

実際の施策に活かしていく  
というところになれば本当にいいのかな  
というふうに思っています

女性のスタッフさんにたくさん来ていただいて しかもそういう人たちがバリバリやっているという姿を見せていただいているので その点に関しても本当に大きいことなのかな というふうに思っています



アクセンチュアから結構いろんな人が  
来てくださるってことで 常一貫して  
アクセンチュアの方がやってくださるというのは  
他の授業と違うところだと思います

グローバル全体として理工系  
STEM 領域の女性の不足というのは  
すごく言われていて女性も理系分野に  
行ってきちんと仕事があって  
活躍できるんだよっていうところは  
私たちが伝えて行きたいなと思っていて

ちょっとでも 生活とか  
自分のもう少し身近に感じてもらって  
好きになってもらうっていうのが  
一番大きな目的かな と思っています

身近なもの 課題に身近なテクノロジーを  
応用して 学習させて素晴らしいサービスを  
作っていくことが 多分これからは  
求められると思うのですが  
考えるきっかけにして欲しいなと思っています

Copyright © 2018 Accenture  
All rights reserved.

Accenture and its logo are  
trademarks of Accenture.